

抗ヒスタミン剤の分析 Histamine antagonists

抗ヒスタミン剤は、鼻炎や皮膚炎を抑制する有効成分として、薬剤中に含まれている物質です。これらの物質のHPLC分析を行う際には、残存シラノールの影響によるピークのテーリングを抑制するために、ペンタンスルホン酸ナトリウムや過塩素酸ナトリウムなどのイオンペア試薬を移動相へ添加して、分析が行われるのが普通です。しかし、イオンペア試薬を用いた分析では、カラム平衡化に時間がかかることや、グラジエント分析時における再現性がないなどの欠点が挙げられます。Super EndcappingされたL-columnODSでは、このような吸着やテーリング性の高い塩基物質の分析に関して、イオンペア試薬を用いなくても、試料の吸着やピークのテーリングを極力抑えて分析することが可能です。

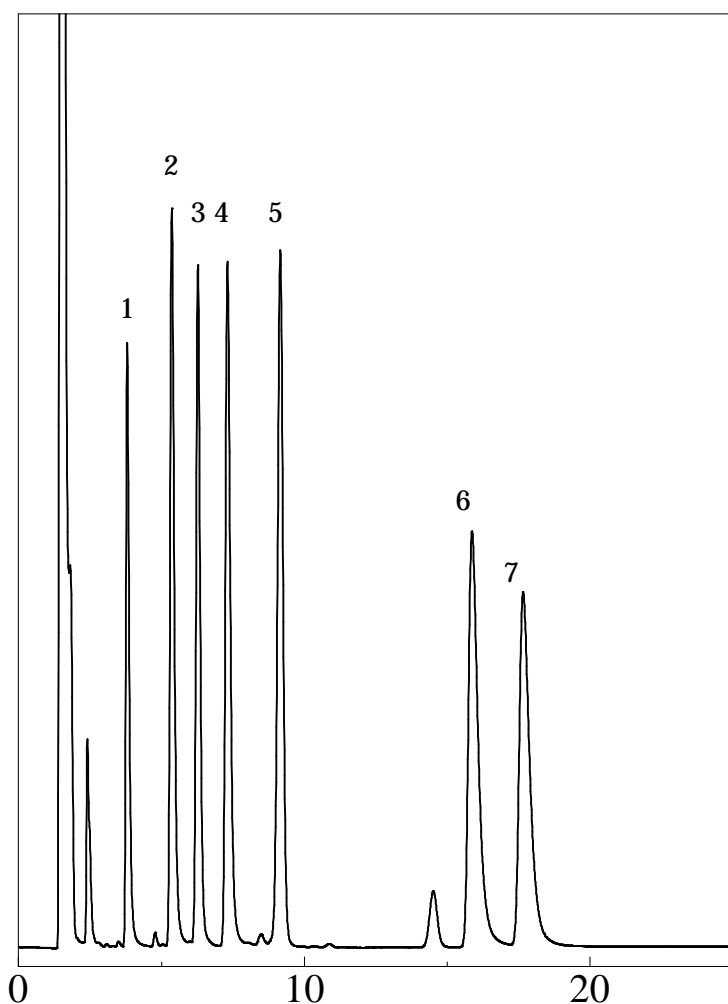
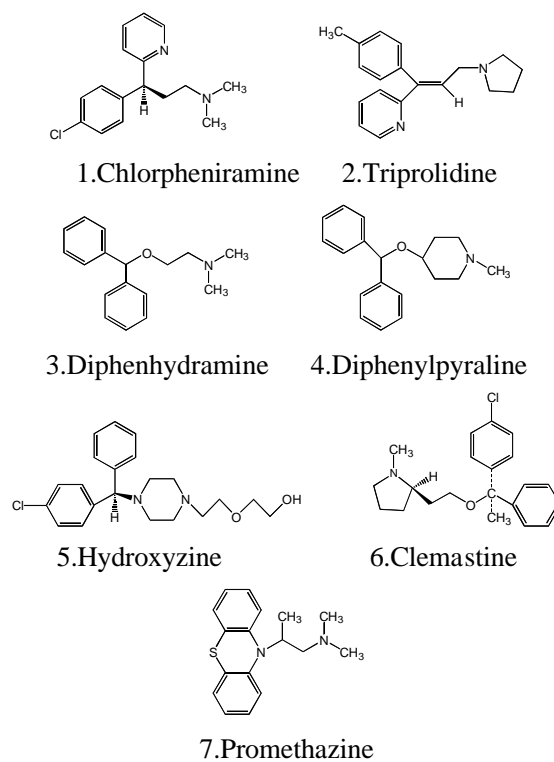


Fig. Chromatogram of histamine antagonists



【Analytical conditions】

Column	: L-column ODS(5 μ m) 2.1 \times 150 mm
Mobile phase	: 50/50 Acetonitrile / 25mM Phosphate Buffer pH7.0
Flow rate	: 0.2 ml/min
Temperature	: 37
Detector	: 220 nm
Injection volume	: 1.0 μ L